



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第123号

2023年5月1日

6月24日(土)・25日(日)

富士山麓でお会いしましょう！！

今年度の年次総会・研究発表会・シンポジウムは対面形式で、富士山のおひざ元、富士山本宮浅間大社で開催する。

詳細は3・4頁に掲載しているが、研究発表では3者が多様な研究成果を発表、シンポジウムでは、川勝平太・静岡県知事の基調講演の後、パネルディスカッションで、学際的に富士山の実相に迫る。

翌日は、浅間大社を拝観した後、静岡県富士山世界遺産センターを見学。富士山の湧水が育んだニジ

マスと「富士宮焼きそば」の昼食の後、人穴富士講遺跡、富士山における修験道の中心地である村山浅間神社、富士山の遥拝所がある山宮浅間神社を訪れる。

日本人は、なぜこれほどに富士山に心惹かれるのか。そもそもどんな山なのか。多彩な観点からの謎解きの2日間、ぜひご参加いただきたい。

なお、正会員で総会に欠席の向きは、必ず委任状の提出をお願いいたします。

book book book book book book

地域防災と時間性

高田 知紀 編著

昨年の秩父大会シンポジウムでのパネリストとして発言した高田知紀氏が、多彩な研究分野の研究者と共に、過去の災害を伝える古文書や伝承などを調査・研究した成果をまとめた。災害の痕跡、神社の場所の意義と意味、古文書や災害碑などの調査が地域防災のワークショップなどに繋がり、住民の防災力の向上に寄与していることに希望が見える一書となった。ユニオンプレス 定価4千円＋税

一茶繚乱 俳人小林一茶と江戸の園芸文化

賀来 宏和

江戸時代後期に花開いた日本の園芸は、当時、世界最高水準にあった。開国によって日本を訪れた外国人も、長屋の前に飾られた鉢植えに感嘆の声を漏らしている。本学会の理事で、自らも俳号を持つ筆者が、この時代を生きた俳人小林一茶が、「梅」「桜」「朝顔」「菊」を詠んだ句を通して、生き活きとした庶民の園芸熱を浮き彫りにした大著をものした。

我が国の園芸文化の歴史やその奥深さを教えてくれる一冊。そろそろ「朝顔」の季節、一句ひねりながらの種まきも風流かもしれない。

八坂書房 定価6千8百円＋税

掲 示 板

『原稿募集!』

『社叢学研究』第22号への投稿：論文、研究ノート、短報、資料紹介や調査報告(各400字詰原稿用紙40枚以内)と「鎮守の森の活動報告(祭、音楽会、調査、ワークショップなどの実施報告、抱える問題点など)」「社叢訪問記」(各1,200字程度)を募集いたします。締め切りは、論文等10月27日(金) 活動報告等12月22日(金) いずれも必着。

★ 会誌の投稿規程と論文の体裁、引用文献の記載方法を公開しています。投稿される方は、これに従って提出してください。http://www.shasou.org/journal/format.pdf

* 書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい。



全国各地の御神木から見えてくるもの

講師：松本 滋(神社新報社記者)

コロナウイルス感染予防の規制が緩和され、約3年ぶりに開催された関東定例会は、神社新報社の記者として全国の神社を取材してこられた松本滋氏に、自身のSNSでも紹介されている御神木について、スライドと共にお話しいただいた。

訪れたことのない都道府県がないほど、全国の神社を取材してきた。行く先々で御神木を撮影し、SNSなどで紹介している。光の具合、社殿との関係やたずんだ時に感じるもの。どこが撮影のポイントかは御神木が教えてくれる。御神木はまさしくその場の空気、香り等を生み出している。御神木が先か、神社が先か。神域木に神は宿り、宿る木の回りが神域になる。

私の御神木の写真をご覧いただくことで、癒され、心の栄養補給していただければと幸いである。またこれをきっかけに御神木のある御神域に足を運び御神縁を繋ぎ、未来が拓かれることを祈念する。

木が神宿る目印、信仰対象に 鹿児島県指宿市指宿神社の田の神依代ムクノキは樹齢21.1m、幹周3.1m、樹齢推定300年で、昭和28年まで続いたお田植え祭では、田の神霊が現れる御神木とされた。

石川県でおこなわれる「あえのこと」では、家に”田の神様”を迎え、ご馳走を供えてなしたのち、松の木(若松様)に”田の神様”をのせて、田んぼの土に差し、田に返す。

道沿いの祠 東海道新幹線三河安城駅近く新幹線の車窓からは庚申神社の御神木と祠がみえる(豊橋を過ぎて名古屋に向かい進行方向左手)。

樹齢を経て信仰が高まる 大阪府門真市の三島(みつしま)神社境内に生育するクスノキの巨木は推定樹齢1000年以上とされ、1938(昭和13)年に国の天然記念物に指定された。日本国内でも有数のクスノキの巨木とされる。

初辰まいるの中心的な大阪、住吉神社の南楠神社は「はったつさん」と親しまれ、古くから商いを営む方から篤い信仰を受けている。樹齢1000年を超える

クスノキに人々は大樹の神秘的な靈力に祈りを捧げてきた。根元に設けられた祠に神様をお祀りするようになり、神木から神社へ発展したといわれている。

東北総鎮守志和稲荷神社の樹齢1200年といわれる御神木の杉は、「おいなりさん」と仰がれて、厄祓に訪れる人が多い。

樹相等によって信仰が高まる 埼玉県行田市の八幡神社では「結び目には神の御心が宿るもの」と信仰のもとに社務所で結び文を受け、文に願いを記入し、いちよりの木の隣の奉納場所に文を結び、神とご縁を結ぶ。金運は黄色、健康は緑など文の色によって結んでいた願い事が違う。

和歌山県熊野本宮大社の社務所前にある多羅葉(たらよう)の御神木の下には黒い八咫鳥ポストが設置されている。多羅葉の葉の裏に爪などで文字を書いていたことが葉書の語源ともなり、「葉書の木」「手紙の木」とも呼ばれている。社務所では葉書として投函できる八咫鳥ポスト絵馬を販売している。

花が咲き実を結ぶ樹木も御神木となり信仰対象に 鹿児島県霧島神宮の枝垂れ桜、福岡県太宰府天満宮の飛梅、愛知県名古屋市城山八幡宮の橘など。

注連縄、看板設置で信仰が高まる 看板やインターネットで宣伝すると世界各国から人が訪れる。

御神木への信仰は生き続ける 植え替えられ何代に渡って信仰対象になっている御神木もある。

枯れても祭祀対象になっている御神木も少なくない

高知県土佐神社輪抜け祓所は、御神木(樹齢800年程の杉の大木)が倒木の恐れから伐採することになり、その木霊を忍び根元部分を奉斎した輪をくぐることで、心身が清められ、大木の長寿やたくましさを授かるご神徳があるとされる。

100を超える御神木のスライドも素晴らしく、コロナ禍で遠出しにくく日が続いた中、東京に居ながら全国の神社巡りをしたような楽しいひと時となった。ぜひ松本氏のSNSページも覗いていただきたい。

(文責 渡邊節子)

御堂筋のイチョウ並木について(Ⅱ)

話題提供：大槻 憲章

120号(22年11月号)掲載の関西定例研究会概要の続き。大槻氏(株公園マネジメント研究所技術顧問・元大阪府公園課長・NPO法人国際造園研究会常務理事)が御堂筋とイチョウ並みの歴史や意義について熱く語る。

御堂筋は大阪のシンボル 大阪にとって御堂筋というのはどういうものなのだろうか。多くの歌謡曲にも御堂筋が出てくるが、御堂筋は単なる通りの名前ではなく、大阪のシンボルになっていて、大阪人の心の中には、自覚していなくても常に生きているのではないだろうか。

御堂筋は大阪市の中心部の二大ターミナル梅田と難波を繋ぐメイン通りで、昭和12年5月に大阪市の第1次都市計画事業によって広路第1号線として完成。全長4,027m、幅員は43.6mで、24間(けん)道路とも言われた。街路樹は4列で、沿道に北御堂(浄土真宗本願寺派本願寺津村別院)と南御堂(真宗大谷派難波

別院)があることから御堂筋という名前がついた。秋にはイチョウ並木の黄葉が見事で、そういう意味でも親しまれている。

御堂筋は開設当時、我が国では画期的な大通りで、道路幅44mは我が国では他に類を見ないものだったが、造成には様々な課題があった。

明治になって近代化が進み、産業が発展して人が都市に集中していくと、都市問題の解決策として都市計画が必要になる。大阪でも、都市計画街路第1号線として御堂筋造成を決めたが、当時、すでに大阪の街にはびっしりと家屋が詰まっていた。さらに元は海だったために地盤は軟弱で、造成工事は困難を極めた。

更に、米国発の世界恐慌により日本経済も危機的な状態になった。また、道路の下に大阪初の地下鉄を通し、電線をいち早く地中化するなど、難工事が続いた。これを克服できたのは、関一大阪市長の功績が非常に大きかった。

大大阪と関一市長 1889(明治22)年に大阪市が誕生するのだが、その前年に第1次地域拡張に踏み切り、周辺の28町村を編入、面積が約3.6倍、西側は大阪湾までが大阪市となった。さらに1925(大正14)年には44町村を編入し、1,801km²、人口211万、当時の東京市を抜いて面積・人口ともに日本一の大都市になり、「大大阪」と呼ばれた。が、関市長の言葉に「面積の広いことや、人口の大きいことを誇るべきではない。この自由な進取的な企業精神を活動せしむる根拠地として大大阪を完成すべきである」がある。

さて関一は1923年に市長に就任、社会政策学や都市計画学の知見を生かして前市長時代から計画されていた多くの事業を実行に移した。第二次地域拡張、市営公園や公営住宅の整備、市営バス事業、大阪港の整備、地下鉄と御堂筋線の建設、大阪城公園の整備なども含まれる。御堂筋を整備するにあたっては、受益者負担金制度を導入した。

御堂筋の景観はビルのラインが揃うように、沿道の建物の高さを100尺(=約31m)に制限するように決められた。これは都市政策論の学者でもあった関一がパリをはじめとするヨーロッパの都市を訪れ、影響を受けて計画したもので、明確な都市イメージを持って構築しようとしたことがうかがえる。以後、何度かの緩和処置があったが、31mという規定は暗黙の了解として維持されてきた。しかし、平成19年に完全に撤廃された。

パリでは19世紀に知事のオスマンが大改造を行うが、景観を考え、幅員20m以上の道路では沿道の建築物の高さを20m以下と定めた。1967年には20m制限が緩和されて31mになっているようだが、やはりその道路の広さと建物の高さはある程度決めた方がよいというのが当時の考えだ。

並木道の魅力 御堂筋の魅力は並木だ。街路樹があると雰囲気が変わる。淀屋橋から南は中央に4車線あり、緑地帯にイチョウ並木、さらに緩速車線が両側にあり、さらに歩道にイチョウ並木があるという構造になっている。

このイチョウ並木は昭和12年の御堂筋の完成に合わせて植えられたが、当時、どのような樹種にするかという議論があり、市議会で梅田から大江橋まではプラタナス、淀屋橋から南はイチョウと決まった。

現在は全てがイチョウに変わっている。

さて、並木や街路樹にはどんな意味があるのだろうか。現在、街路樹は道路の附属物として道路構造令などで規制されており、自由なものではないのだが、沿道の景観向上に果たす役割は非常に大きい。また、視点を前方へ誘導する作用、緑被率の向上、木があることによるビルの圧迫感の軽減などに加え、地域の特徴づけにもなる。さらに環境に対する効果、緑陰の提供、微気象の緩和、騒音の軽減、排ガスの吸着なども指摘できる。

御堂筋の魅力として4列に並ぶイチョウ並木があるが、4列の並木を持っている広い道路を世界で探すと、幅員70mのシャンゼリゼ、森鷗外の『舞姫』にも出てくるベルリンの、「菩提樹の下」という意味のあるウンターデンリンデン、バッキンガム宮殿の前のザ・モルなどがあげられる。ザ・モルは延長1kmぐらい、ウンターデンリンデンもシャンゼリゼも2kmぐらいだが、これに対して御堂筋は4kmある。

スーパーブランドが集積 御堂筋のイチョウ並木にはどんな意味があるのだろうか。北から南にかけて歩いていくと、沿道の雰囲気はずいぶん違うのに気付く。淀屋橋辺りから歩き始め、本町辺りまではビジネス街だが、長堀橋との交差点辺りに来ると一変して、世界のスーパーブランドショップが軒を連ねている。

1996年の地下鉄長堀鶴見緑地線の開通に合わせて、地下と地上の再開発が計画された。世界に目を向け、心斎橋周辺をもう一度中心市街地にしようという計画で、これは新たな都心の核をもう一つ作り、そこを世界に発信しようという意思表示だった。これを受けてシャネルが日本初の直営店を御堂筋沿いの新橋交差点の角にオープンする。その後、ルイ・ヴィトンやカルティエなどのスーパーブランドが、次々と出店をしてくる。さらにフランスの経済月刊誌がこの周辺の特集を組んだとも聞いている。

現在では、世界でも珍しい50店舗以上が集積するスーパーブランドエリアができています。なぜこの大阪の御堂筋辺りに、このように立派な店舗を構えたのだろうか。こうしたスーパーブランドが出店する際には、本社から社長がやってきて、自らの店の規模や立地を決めるのだが、それぞれの社長が御堂筋を評して言うには、「世界の都市のメインストリートの中でこれほど風格の高い道はない、こんな美しい通りが大都会のど真ん中を4kmにわたって続いている通りは世界にここしかない」と。

4列の樹齢50年から100年ぐらいの大きなイチョウの並木があるこんな美しい通りが、大都会のど真ん中にあるのは奇跡的だと評価し、この場所にふさわしい店を出すという発想だ。こうしたことを大阪人だけでなく、日本人みんなが知っておいてほしいと思う。こういうものが都市格を高めているということを知ってほしい。

大空襲を生き延びた?! 昭和20年3月14日、大阪大空襲の直後の御堂筋の写真をみると、焼け野原にイチョウ並木が立っているのがわかる。この木が燃えて枯れてしまったのか、それとも生きているのかはわからない。大阪大空襲の被災地図を見る

と、大阪市のほぼすべてが消失している。現在、御堂筋にあるイチョウの調査をすると、太い木に大きな傷のあるものが見つかる。東側の木には東側に、西側の木には西側に傷がある。同じ道路の外側に傷があるということは、これはあの大空襲による沿道火災の火傷の跡ではないだろうか。イチョウは水を吹くとも言われるように、非常に火に強い。横の建物の焼け方が違うので、全て生き残ったとは思わないが、火傷をしながらも生き残った木があるのではないか。イチョウが今でもこうして生きているのは、結局そういうものを守ってきた大阪人の心温かい優しさではないかと考えられる。

現在の御堂筋沿道の建物も再建され、美しく生まれ変わっているが、有名ブランドの経営者たちが評価した御堂筋には、空襲を生き残った大きな立派なイチョウ並木が存在するという事だ。大空襲から80年近く、これを守り抜いてきた優しさと心意気があったからこそ今の御堂筋の景観があり、大阪の発展もあるのだろうと思う。

ところが現在、かなりの強い剪定がされており、これは特にイルミネーションを実施するようになって以来のことだが、樹木の生育に影響がないのだろうか。少し心配している。こうしたことをできるだけ多くの人に知ってもらい、声をあげられたらよいと思っている。

事務局から

- 富士山大会が近づいてまいりました。事務局としても、引き続き感染対策は確実に講じて参りますが、ご参加に際しても、よろしくご配慮くださいますよう、お願いいたします。
なお、参加費はできるだけ事前にご送金ください。同封いたしました会費の振替票の金額を修正してご使用ください。
- 令和5年度(2023年4月～2024年3月)の会費の振替用紙を同封いたしました。銀行振り込みもご利用いただけます。三菱UFJ銀行 京都支店 普通口座6720345 特定非営利活動法人社叢学会 です。郵便局振替口座へのお振り込みは、099店 当座 0172640 特定非営利活動法人社叢学会 にお問い合わせいたします。
なお、今年度より会員証はご希望の向きにのみお送りいたします。ご希望の節は、振替用紙にその旨をお書きいただくか、Mail・FAXなどでお知らせください。
学会活動を円滑に運営するためにも、会費の納入方、よろしくお願いいたします。
- 前記の通り、『社叢学研究』21号への投稿を募集しています。研究者の業績評価にもつながりますので、ぜひご投稿ください。論文には至らない準

守りたいイチョウ並木 御堂筋全体を公園にしたいという思いがあり、知事にも進言したことがある。好意的に受け入れたのだが、その後いずれは御堂筋を緑化しようという計画が持ち上がり、実際に工事に移っている。現在、自転車道と歩道を広げる計画があり、工事が進んでいるのだが、中央分離帯のイチョウの位置を動かそうという発想があり、今のイチョウを残すことが難しくなるのではないかと心配している。

問題は本当に木を大事にしているかということだ。太平洋戦争を生き抜いてきたイチョウの木など、樹木1本1本には歴史があるのだということを理解し、できるだけ長く、200年300年と育てていく意図はあるのだろうか。先ほども述べたように御堂筋は大阪の象徴であるし、都市のイメージも引き上げている。これを一つのシンボルとして、大阪に限らず、みんなで育てていくというのが今後の大きな目標になるべきではないかと思っている。

大きい木でも小さい木でも、それぞれに植えた人の思い、育てた人の思いなど歴史がある。それを大切にしていくのが必要ではないか。新しいから歴史がないというわけではない。植えた人の思いがあり、また何十年か経て、それを育てた人の人生もそこにかかっているのかもしれないのだ。

備段階の研究ノートや、短報、身近な活動、社叢の訪問記(紀行文)もお待ちしています。

学術論文としての体裁を整えるための書き方や、引用文献、参考文献の扱い、記載の仕方については社叢学会のホームページに公開しています(<http://www.shasou.org/journal/format.pdf>)。お目通し下さい。

編集後記

今年は春が早かったなあ。サクラもあっという間に咲いてしまったし。なんか、焦る。。。

当然、庭の雑草が早くからタイヘンなことに。牧野センセイは雑草なんて植物はナイ！と仰ったそうで、はいはい、スギナとカラスノエンドウとドクダミですよ、覆いつくす勢いなのは。

数年前、庭の野草は食べられる！と聞き、早速やってみましたっ。いかにも美味しそうにもりもり生い茂るカラスノエンドウをおひたしに。硬いわ！スジスジして噛み切れないし。従って飲み込めないし。よく読むと、その辺の野草は何がかかっているかわからないので、店で買えだあ？

そんなもの、野草ではなく野菜ではないか。ワタシはね、野菜を買わずに庭の野草を食べて食費の節約がしたいのよっ！ (藤岡 郁)

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL・FAX 075-212-2973
URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp
社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasougakkai@hotmail.com